

第2回 十勝川流域委員会 議事要旨

日時:平成20年6月24日(火)13:00~16:40

場所:とち館 鳳凰の間

出席者:加賀屋委員長、石原委員、泉委員、黒木委員、佐々木委員(途中退席)、藤巻委員、眞山委員、丸山委員、山崎委員、山田委員 計10名

議事要旨

1. 委員の紹介

東京農業大学生物産業学部の鈴木淳志教授のご不幸に伴い、第2回委員会より、水生生物の専門分野における学識経験を有する者として、元(独)さけ・ます資源管理センター調査研究課長の眞山紘先生が参画することとなった。

2. 議題

(1)今後の十勝川流域委員会の流れについて

今後の十勝川流域委員会の流れについて事務局から説明した。

(2)流域及び河川の概要(第1回流域委員会の補足説明)

第1回流域委員会の補足説明について事務局から説明し、これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・ サケ・シシャモは沿岸での漁業対象種であるが、どのように十勝川で再生産及び人工孵化放流事業が行われているのか、また川との関わりについて説明していただきたい。

(3)洪水対策の目標流量について

洪水対策の目標流量について事務局から説明し、これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・ 洪水対策としての治水面では、どの程度まで整備するのか、目標流量概念で分かるようになっている。だが、これからの河川整備は理念にあるように、なにも洪水対策に狭く限定する必要はない。それ以外に河川整備理念にある環境面の対策を、如何に目標概念化してまた洪水対策とどのように整合させるかについて、考え方を説明していただきたい。
- ・ 新たな洪水調節施設は想定していないようだが、河川整備計画における河道への配分流量の妥当性について説明していただきたい。

(4)札内川について

札内川について事務局から説明し、これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・ ケショウヤナギ以外についても、環境保全についての考え方を説明していただきたい。
- ・ ケショウヤナギの保全に関しては、その現状を踏まえ、モニタリングだけでなく、対策等を含めて、もう少し踏み込んだ記載を整備計画にする必要があるのではないか。

- ・ 札内川は農業用水(畑地)の利用が盛んであり、畑地の場合、水の還元が殆ど見込めないと思われるが、利水面からの流量は1/10 濁水流量を維持すれば良いことになるのか、水利用との関係を含めて説明していただきたい。
- ・ 札内川下流の河床変動については、上流の砂防施設等の状況も含めて説明していただきたい。
- ・ 水道用水について、地下水からの取水が4割を占めているとのことだが、今後の見通しについて懸念される。
- ・ 地元の住民の方々にとって、札内川は、親水や環境の面で非常にイメージの良い川ではないか。こうした部分をもっと外部に積極的にPRしていくべき。

(5) 音更川について

音更川について事務局から説明し、これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・ 川沿いの宅地化が進んでいることから、住民の地域防災力向上のためのソフト対策の重要性について、整備計画に盛り込んでいただきたい。
- ・ 河床高の推移は、流量条件との関係からも要因分析し、説明していただきたい。
- ・ (札内川と同様に、)環境保全についての考え方を説明していただきたい。
- ・ ダムによる流況の変化を把握するうえでは、年最大流量の経年変化状況を明らかにする必要がある。
- ・ ダムや頭首工によって、流況がどの様に変化しているのか示していただきたい。
- ・ 魚道整備の必要性は、上流域の流況や遡上対象となる魚類の有無によるのではないか。

以上